

稲グリ新聞

〈発行〉
早大グリーンクラブOB会
稲門グリーンクラブ
〈編集〉
加藤 晴 生 郎 豊
藤原 信 二
加藤 佐 木 川
石 川 了
〒208 武蔵村山市大南
2-26-12 藤原信二郎方
TEL (0425) 65-1839
(毎月1回発行)

《第8回》
OB四連

さあ、大ステージに向けて 最後の仕上げ頑張ろう!!

副会長 富永 侃(三五)

いよいよ真夏の一大コーラスイベント「OB四連」の開幕です。諸兄には「十の詩曲」の暗譜にさぞや余念がないことと思います。さて、受入れ側の関西では、マネ会も九回目を七月二日に終え、準備も万端整っています。以下最終のご報告まで。

一、エールステージ、合同ステージとも全員オンステ。

二、単独ステージの各団持ち時間

は二〇分、稲グリは一〇時四〇分から。

三、仕上げについては会場の「ジョーン」の収容人員数は五〇〇～五五〇名位です。若千の人数制限が必要となり、各団一三五名というところで、チケットを配布します。男性五〇〇円、女性三〇〇円。各団内で調整してもらおうこととなります。

四、当日の役割

稲グリ・活動日程

7月2日(火)	東混練習場 18:30~21:00	十の詩曲
6日(土)	奉仕園(小) 17:00~21:00	〃
7日(日)	合同「月光とピエロ」東京地区合同練習室 東京芸術劇場大ホール	北村協一氏
	10:30~13:00	〃
9日(火)	東混練習場 18:30~21:00	十の詩曲
13日(土)	大阪・名古屋「月ピエ」練習(北村氏) 14:00~16:00 吹田さんくすホール	〃
	東・名・阪全員 「十の詩曲」ゲネプロ 17:00~21:00 難波神社(南久宝寺)	〃
14日(日)	第8回東西四大学OB合唱連盟演奏会 フェスティバルホール	〃
	13:00 開場 13:30 開演 17:00~19:00 打上げ「徐園」	〃
16日(火)	久々の練習休み!!	
23日(火)	東混練習場 18:30~21:00	曲未定
30日(火)	〃	〃
■8月1日~26日	まで「夏休み」	
27日(火)	東混練習場 18:30~21:00	練習開始
9月3日(火)	〃	曲未定
10日(火)	〃	〃
17日(火)	〃	〃
24日(火)	〃	〃
29日(日)	桜楓合唱団定演賛助曲「春立つと」練習	〃
10月1日(火)	東混練習場 18:30~21:00	曲未定
	以下、毎週火曜日練習	
20日(日)	特ステ・早稲田校友大会出演	大隈庭園
22日(火)	桜楓「春立つと」練習	〃
11月2日(土)	〃	〃
4日(月)	〃	〃
5日(火)	第22回桜楓合唱団定期演奏会 賛助出演 東京芸術劇場(池袋)	〃
28日(木)	稲門建築会特ステ 京王プラザホテル	〃
12月7日(土)	早大グリーンOB会・平成3年度「総会」 第10回グリーンクリスマス 半蔵門会館	〃
21日(土)	コーラス・イン・マリオン(五回目) 有楽町朝日ホール	〃

幹事会

四十周年記念事業等(来年度)を討議

ロビー関係各団三名。稲グリからは、加藤幹事長(東京)、豊田幹事長(大阪)、三宅チケツト担当マネ(大阪)が出ます。稲グリからは阿部マネ(大阪・四一)が

出ます。それでは各自、体調に十分気を付けて悔いのないステージと、打上げの美酒を目指してもう一頑張りしましょう!

今後のスケジュールの詰め、来年度の四十周年記念事業計画等の協議のため、六月十二日(水)夜、志賀会長以下幹事二十一名を集めて、稲グリ幹事会が開かれた。以下その内容。

1. 今後のスケジュール
第一面「活動日程」参照
新たに特ステとして、以前にも

出演したことがある「稲門建築会」のパーティー出演を決定。十一月二十八日(木)夜。

行事別担当マネの決定。

- * 校友大会 佐々木豊(五九)
- * 桜楓定演 安斎真治(四七)
- * 稲門建築会 辻田行男(三七)
- * グリーンクリスマス 永井秀夫(四二)
- * マリオン 安斎真治(四七)

2. 役員人事

森川智(旧姓三品・五三年卒)
指揮者団に加える。

長尾要(二四)
校友連絡委員長(名簿編纂委員長)

玉崎洋一(二七)
幹事兼名簿編纂委員長(幹事)

3. OB四連準備状況

稲グリ(小俣マネ報告)の活動、活躍目覚ましく、各校OB団体に良い意味で刺激を与えており、盛り上がった演奏会になる。

東京だけで一〇名以上、大阪、名古屋を加えて一四〇名ほどのオンステとなり、単独ではOB四連史上最大規模のステージになる見込み。「十の詩曲」も暗譜でやり、賞、量ともにナンバーワンを目指したい。

指揮者山本(正)さん(五七)が六月末まで海外出張のため、留

守中は耕納さん(三七)、阿部さん(五七)が練習指揮を受け持つこと。

4. 四十周年記念事業

稲グリ中心のステージとプロ、功労者などが参加するステージの二本立て、即ち、演奏会と「祭典」的なステージとすること及び収益の一部をチャリティに活用する方向で検討していく。

具体案は本幹事会で出された各意見を参考に、幹事長、演奏マネ等で検討、作成する。

* 海外演奏旅行
アメリカの有力ホールの予約状況等が報告された。

5. その他

(1) 愛唱歌集について
七月二十三日以降の練習に愛唱歌(赤本)の練習時間(一〇分)一五分を設ける。詳細は安斎マネと長沢指揮者にて打ち合わせる。

愛唱歌?第二集
榎木委員長による選曲は既に出ているので、更に検討を加え、来年の定演までに完成させる。

(2) 備品としてのユニフォーム
横尾マネ(三七)が好意により管理をしてくれることになったので、クラブ備品として一〇着を発売する。

貸出基準 現役学生はネクタイ、ワッペン、バッジを含め無料。OBは有料。貸与は原則として一人一回。ネクタイ等付属品は各自購入。

その他条件は横尾マネが中心になり決める。

(3) 若手メンバーのOB会員登録促進
現在昭和六十二年卒以降のA、B会員不在。(実際には諸行事に参加はしている。)につき、石原会計が対策具体案を近日中に作る。

以上

「ハミダシ情報」TV「笑っていいとも」に六月二十五日、二十六日、岡村喬生さんとボニージャックスが続けて登場。稲グリからの祝電も打たれ、岡村さんのときはタモリ氏に稲門グリーク

《OB四連》 当日集合は午前九時 前日の飲みすぎにご注意!

OB四連担当マネ

小俣 泰英(三八)

今回のOB四連は左のオンステメンパー一覧表のように、東京、名古屋、大阪をあわせて一五〇名の規模となりそうです。移動、集合、最後の集中練習と大仕事になりそうですので、参加の皆様には是非時間厳守をお願いいたします。また、連絡はマネージャー又はパトリーダに密にお願いいたします。特に、当日午前中は十分に練習時間をとりたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。通

日時	会場	曲目	服装
平成三年七月十四日(日) 一三時三〇分開演	フェスティバルホール (大阪・中之島)	単独「十の詩曲」(暗譜) 合同「月光とピエロ」(暗譜) ユニフォーム、稲グリネクタイ、ワッペン、バッジ、白ワイシャツ、黒ズボン、黒靴下、黒革靴	バッジ(五〇〇円)、ワッペン(一五〇〇円)のない

方当日販売します。集合九時、会場楽屋、声出し。ステージ練習十時四〇〜十一時。開場十三時。稲グリステージは三番目。終演十六時。打上げ「ジョエン」十六時三〇分。チケット購入は事前に。打上げ会場は非常に狭い関係で、荷物は極力少な目にお願ひします。その他詳細はマネージャーにお問い合わせください。



幹事会△△の招拍集
本年後半の活動と第8回OB四連の総括等について、稲グリ幹事を左記の通り開きますので、ご参加ください。
六月三十日
幹事長 加藤晴生(三七)

日時 七月二十七日(土)
午後五時三十分
場所 庄や・新大久保店
会費 二五〇〇円
(出欠の連絡は加藤か頼原マネまで)

《第8回OB四連》

出演メンバー一覧(予定)

《T ₁ 》	《T ₂ 》	《B ₁ 》	《B ₂ 》
長尾(24)	中野(27)	渡辺(16)	加納(24)
内田(27)	田中(惣)(28)	玉崎(27)	檜木(26)
山路(32)(阪)	平井(29)	山本(27)	大倉(27)
石原(35)	阿部(30)	坪井(28)(阪)	永杉(28)
坂場(35)(阪)	宇野(32)	志賀(29)	森(29)
坂本(35)	久保(33)(名)	福井(29)	須賀(30)(阪)
高橋(36)(名)	鎌田(35)(阪)	秋葉(31)	田口(30)(阪)
藤田(36)	長沢(36)	徳田(31)	田中(31)
奈良原(36)	遠藤(37)	浅井(32)(阪)	神永(32)
真下(36)	加藤(37)	草間(32)	黒沢(34)
堀内(37)	耕納(37)	茨木(35)	辻(34)(阪)
小俣(38)	柿沼(38)	富永(35)	高梨(35)
清水(38)	小梶(39)(阪)	豊田(35)(阪)	松並(35)(阪)
有田(41)(阪)	田村(39)(阪)	三宅(35)(阪)	宮地(35)
穎原(42)	稲山(40)	井上(36)	井沢(36)
佐々木(42)	藤野(40)(阪)	黒田(36)	石川(36)
永井(42)	正木(42)	小柴(36)	浦野(36)
宮本(42)(阪)	土屋(44)	鹿(38)	中村(36)
関(44)	石井(48)(名)	児玉(38)	杉浦(37)
村上(44)	伊東(50)(名)	長岡(38)	辻田(37)
安斎(47)	浅野(52)(阪)	大江(39)	横尾(37)
向川原(48)(名)	加藤(56)	塚越(39)	榎本(38)
市橋(50)(阪)	吉田(弦)(56)(阪)	西(43)(阪)	金井(38)
塚本(50)(名)	大場(57)	今沢(45)	佐々木(38)
高野(55)	沖本(58)(名)	黒瀬(45)	阿部(41)(阪)
井上(56)	室井(58)	山本(45)	佐藤(48)
安宅(57)	山下(H1)	星(47)	浅井(52)(名)
荒川(57)	水野(H3)	竹野(54)(阪)	柿沼(53)(名)
今中(59)	山内(H3)	川窪(56)	福島(55)
石川(61)	(29名)	菊地(56)	古賀(56)
白石(62)(名)		古城(56)	阿部(57)
嶺重(62)(阪)		仁科(56)	金沢(57)(阪)
木村(H1)		平賀(56)	豊田(58)
早武(H1)		岩崎(57)	佐々木(59)
中村(正)(H3)		岩淵(58)	道浦(59)(阪)
(35名)		小林(58)	小林(60)
		佐藤(62)(名)	青木(伸)(61)
		西山(62)	尾崎(61)
		津久井(H1)	山崎(H1)(阪)
		西沢(H1)	笠原(H2)(阪)
		松井(H2)	(40名)
		土岡(H3)	
		松崎(H3)	
		(43名)	

指揮 山本 正洋(57)

総計148名(指揮者含む)

「岡武秀さん(二九)の
処女出版を祝う会」のこと
ご存じ熱海後楽園ホテル社長の岡武秀さんが、このほど東洋経済新報社から「社長の給料便り」を自費出版された。これは、岡さんが社長に就任して以来、今日までひと月も休まず、毎月従業員に心をこめて手紙を書き、毎月の月給袋に同封した「給料便り」を集めたもので、岡さんのほのぼのとした人柄が随所ににじみ出た、すばらしい本である。
「祝う会」は七月十一日(木)午後六時からアルカディア市ヶ谷で。会費一万円。

「磯部徹さん(一七)の自著
「遙かな友に」我が音楽人生」
出版を祝う会のこと
作曲家磯部徹さん初の自著「遙かな友に」我が音楽人生」が、音楽之友社よりこのほど上梓された。氏の長い人生と豊穡な音楽生活には、あまたの感動と笑いがちりばめられていて、一読値千金。この本の出版を記念して、次のように出版を祝い会が開かれる。
日時 七月十七日(水)
午後六時三十分
会場 アルカディア市ヶ谷
富士の間(私学会館)
会費 一万円(書籍代含む)

大先輩の磯部さんの初の自著出版を祝おうと、会の発起人八十人あまりのうち稲グリ関係は、志賀会長以下五名、世話人はボニージャックスを中心に全てOBが務める。

「遙かな友に」我が音楽人生」出版を祝う会のこと

「稲グリ友の会」だより

担当 清水 実(三八)

今号より出来るだけ毎回「稲グリ友の会」に関するお知らせを、この欄でさせて頂くつもりです。ここでは、稲グリから友の会の方々へ、また、友の会の方から稲グリや他の会員の方々へのコミュニケーションの場にしたいたいと思います。よろしくお願いいたします。

下山田香代子様・征二様 (世田谷区)
 椎名ふじ子様・敏雄様(渋谷区)
 小出 幸夫様(杉並区)
 千葉 佳子様(新宿区)
 松山 格様・佳陽様(渋谷区)
 佐藤 昭介様・裕子様 (世田谷区)
 宮下 町子様(練馬区)

さて、発足しました「稲グリ友の会」に早速参加の申込を多数の方(まだあまり多くありません)から頂き、誠に有難く、当紙上におきまして厚くお礼申し上げます。ご入会頂きました方を次の通り紹介させて頂きます。

青森 仁様(横浜市)
 久東 理恵様(川崎市)
 杉山 証明様・末子様(台東区)
 椎名 環子様(渋谷区)
 浦野 了様(港区)

本年度は稲グリの定期演奏会がなく(来年は十月三日土曜日に、池袋の東京芸術劇場で定演を行います。)、東西四大学OB演奏会も大阪のため、東京近郊の皆様は聴いて頂ける演奏会は、十二月二十一日(土)のコーラス・イン・マリオンしかないのが残念です。十二月七日(土)にはグリー・クリスマス(第十回)があり、友

会員からのひとこと

の会員の皆様には是非ご参加頂きたく、今からお願ひしておきます。通常、稲グリ新聞の第一面左上に、稲グリ活動日程がありますので、これをご覧になり、スケジュールして頂くと思ひます。入会申込書にも「ひとこと」欄で、ご希望、ご意見を頂くようにしてあり、全ては紹介できませんが、紙面の許す範囲で一部紹介させて頂きます。今後、稲グリの活動に関するご意見、ご要望等ありましたらお寄せください。

■発会おめでとうございます。又、ご案内、お知らせお待ちいたしております。岩本孝嗣さん(三九)に設計をしていただいた関係です。椎名ふじ子(パブ経営) ■定演の一コマにファンからのリクエストコーナーが欲しい。(前もって募集して選曲する?)娘の

卒業式をCDに録音しています。定演そのままをいかがでしょうか。先日、NHK・FMで六大学(現役)の定演(五月三日、四日)を聴きまして楽しかったです。特に早大グリーの音が、ちよつとゴマすりに聞こえるでしょうか? 下山田香代子

■学生の頃、グリークラブに入れないで(男ではないから)、早混で歌ってました。こういう形でクラブに入れていただけたら、誠に嬉しいことだと思います。長生きするものです。よろしくお願ひ申し上げます。 椎名 環子

■何かいいことあるでしょうか。ハワイアの夕べをお願いします。 宮下町子

■いつも素晴らしい男声合唱を聞かせていただけて、感動しています。レパートリーの中に、日本の歌を出来るだけ多く願ひします。 千葉佳子

「三十八年卒同期会」 栃木・鬼怒川温泉で 演奏会付き 開催

神谷 紀一郎(三八)

五月十八、十九日、三十八年卒同期会を栃木・鬼怒川温泉で開いた。参加は本人十九人に奥さんを含め合計三十三人。

うち八人は、前日から鬼怒川カントリークラブへ繰り出し、鬼怒川を囲むコースで壮大な芝刈り合戦を展開。乗りに乗った一行は、しばしば鬼怒川にティーショットを叩き込み、純情な川魚たちの心底を寒からしめるなど大奮闘。

年が過ぎる一・五ラウンドを消化、あごを上げた参加者の成績は、北村、西田、大古殿、小俣、西川、清水、須山、長岡の順(スコアは本人の名誉のため省略)。

「ハミダシ情報」札幌に転勤になった篠松次郎さん(五四)から便りあり。

一方、宿舎の柿沼夫妻の世話になる「キャトルセゾン」はマンシオン風ホテル。何とそのしやれた玄関には「グリーンクラブ演奏会」と掲げてあるではないか。参加者は一瞬ギョッ。

聞けば草津などの向こうをはって、宴会の鬼怒川からの脱皮をはかろうというオーナーの狙いだとか。どてらでいいのか。楽譜は「と恐慌を来たしたメンバーは、夕食中もいまひとつ盛り上がり。浴衣に着替える者もほとんどなし。玄関ロビーでのミニ演奏会には地元のプロのソプラノ、ピアノストが登場したほか、柿沼夫妻の愛娘が

アイオリンの腕を披露。鬼怒川の谷にクラシックの音が響き、前回の熱海での宴会とは雲泥のムード。そして「グリーンクラブ」の出番。本番になると居直り、堂々となることと今や世界的に有名なグリーメンのことで、加藤の指揮で「ふるさと」まで歌いまくり、ほとんどが奥さんたちで占めた聴衆から熱の込められた盛大な拍手を浴び、やがて要求されないアンコールを次から次へとという本来のグリーの姿に。

プロ演奏者とホテル関係者からの「すてきでした」という義理の声を最後に、露天風呂で冷や汗を流した後、やつと宴会。マイクを離さないいつもの人物を中心に、鬼怒川の夜は更けていったが、こりない面々のこと、「これからもこの演奏会付きでいこう」の声もしきりであった。

「これはプロだ」と評された 「日本奏歌全集」CDの 稲グリ吹込み

加藤幹事長(三七)

春秋会(応援部OB会)の依頼により六月十六日(日)、赤坂・にかつスタジオオセンターに於いて、この秋開催される「第三十一回日本奏歌祭」記念としてクラウンレコードより発売される「日本奏歌全集」のCDに校歌「都の西北」の吹込みを行なった。

この全集のレコードは、既に昭和四十三年に明治百年記念として制作発売されており、これには奏歌祭加盟校(五十八校)のうち四十二校分が収められているが、わが「都の西北」ははじめ有名な校歌・奏歌の中で未収録のものがあった。今回残り十六校分を収録したことにより、名実共に「全集」となるわけである。

正しい校歌・奏歌の歌い方を後世に残すことがこのCD制作の目的の一つのことと、稲グリは原譜に忠実な正調ユニゾンで「都の西北」を歌った。某氏によれば、稲グリを聴いたレコーディングスタッフが「これはプロだ」と言ったとか。



参加者は、春秋会が幹事長の寺田 正明氏(一一)他四名。稲グリが、指揮をした耕納(三七)をはじめ、津田(二二)、長尾(二四)、榎木(二六)、玉崎、中野、山本(二七)、田中惣、永杉(二八)、志賀(二九)、石原(三五)、加藤、関口(三七)、児玉、清水実、長岡(三八)、清水卓(四〇)、頼原(四二)、黒瀬(四五)、安斎(四七)、阿部(五七)、佐々木(五九)、土岡(五三)の各氏が、雨の中、早朝から集合。なお、本件は鈴木邦男氏(三〇)の紹介による。

春秋会より、「紺碧の空」作曲五十周年を記念して昭和五十六年古閑裕而氏により作曲された「母校のか」とに立ちての楽譜が贈られ、稲グリライブラリー(榎木愛唱歌集編纂委員長担当)に保管された。

盛り上がりがありました」とのこと。

熱海「逍遙祭」特ステ出演記

TGS特派員 T・P記

やはり大阪でのOB四連を一月程後にひかえていた四年前に、稲グリは初めて「熱海逍遙祭」に参加した。二度目はつい七か月前の昨年十一月。それ以来の熱海である。六月九日(日)はもうすっかり夏の陽射し。

会場の熱海市観光会館へ着いてまず昼食。その後、今回の指揮者・耕納さん(三七)のもと声出しを兼ねて練習。全て愛唱歌集の中の曲であるが毎回のことながら「熱海市歌」だけは手強い。それに今回は「ステーション」も。ステージ練習の時から、お客様がパラパラと入場してくるあたりは、いかにも市民の方々の大らかさを象徴して微笑ましい。

二時に開演。祝辞の後を受けて、稲グリの校歌、クラブソング、応援

歌で幕開け。そして、熱海少年少女合唱団の純粋な歌声。さらに、熱海後楽園ホテル社長でこの特ステの言わば「現地担当名誉マネージャー」である岡武秀さん(二九)のお嬢さん・岡範子さんと説明無用の山本健二さん(三一)の、こちらは熱練の歌声が続く。

その後休憩をはさんで稲グリの愛唱歌ステージでお開き。今回の司会は久々に岩淵さん(五八)であったが、イメージチェンジをはかっていたとかで、ステージではとうとう伝家の宝刀の芸を出さずじまい。スマイルにまともな上げがた。演奏の方はまあまあであったと思う。

さて、主目的(?)は例の如く後楽園ホテルで。ところが時間が押せ押せになっていて、残念ながら温泉

不惑の年を迎えた

現役六連、四連を聴く

現役担当 佐々木 豊(五九)

翌日に名古屋行きをひかえた五月四日、池袋の東京芸術劇場で東京六連を聴いた。

早稲田は指揮・編曲・ピアノ・演出・お話の「一人五役」に前田憲男氏をお招きし、「前田憲男アトラダムシート」と題して、「サニードイ(セサミ・ストリート)」「オーリンマンリバー」「シンダガ」等の懐しくも楽しい曲の数々を披露。いみじくも前田氏の言う「アウト・ロー」的存在として聴衆の大きな拍手を集めていた(言うまでもなく「アウトルーパー」は他にあるが)。

前田氏はピアノを弾きながら指揮補助の指揮を執る。田中宏君がリバーでベースのメンバを舞台最前列(客席のすぐ前)に並び、広がるように並べて、低音のパート

ソロを歌わせたり、という極めて斬新なスタイルを導入。しかも、例の「ウエストサイドストーリー」と同じ「わせた、わせた」の連呼も敢えて言えば、楽しいステージに相応しく、もう少しこなれた出来になるかと期待したが、歌詞を覚えるだけでも結構大変であったのかも知れない。十一月末の定演でも前田氏との共演があるという。更に楽しいステージになることを期待したい。

他校では慶応の「トステイ」(畑中良輔氏指揮)が懐しい。私事にならぬが稲グリでの初ステージの曲目である。また、合同での「夢の肖像」(榎本英一氏指揮)も好企画。

さて、雨降る六月二十二日(土)今度は上野の東京文化会館で現役の東西四連を聴いた。今年も東京大阪同時開催で東京公演はこの日のみ。

「ハミダシ情報」ある日の庄や飲み会。吉田さん(四二)、若手の尾崎さん(六一)に「オメーすげー顔してんなア、もてないだろう」尾崎さん「ムツ」。だが、この尾崎さんも今秋には結婚吉報を出す予定なのだ。吉田さんお祝い頼みます。

につかるのはあきらめざるを得ない状況。まさに「背に腹はかえられない」という思いであるが、どうやら福島さん(五五)ら数名は執念の早風呂を敢行した様子。

そして豪華宴会へ。相変わらず海の幸が美味しい。やがてカラオケが登場し、去年デビューの田中惣一郎さん(二八)の舞い(めまい?)が熱烈な「ソーさんコール」を受けて登場。これに岩淵さんの「王将」と「早送りシリーズ」が花を添える。

帰りも大変である。まず、ホテルが準備したバスの中では奈良原さん(三六)が通路に立ち上がって指揮者と化し、「田舎のバス」の大合唱が熱海駅まで。ついで、東海道線の中もズバリ陣取った稲グリメン(夫人若干名を含む)が騒がしいこと。世間の迷惑と思いつつ、他人のふりができない自分が悲しい。

そんなこんなで大変濃密な一日を過ごしたのであった。参加者は四十三名。児玉さん(三八、仮名)がこの特ステのことを全く忘れて欠席したことは内緒にしておこう。

ザ・ブレッツスンフォアが解散

早大グリーOBを含むプロのポ一カルカルテット「ザ・ブレッツスンフォア」が今年三月解散し、結成以来二十五年の歴史を閉じた。デビュー当時は「サニートーンズ」というカルテット名で、メンバーもオールワセグリOBであったが、その後、リードテナーとベイスが新しく入れ替わって今日に至っている。



六月三十日(日)に銀座の東芝プラズワンホールで最後のコンサートを開き、ファンと別れを惜しんだ。

(写真)左端丸山美雄(T)・右端小林正明(B)・両氏とも昭和四十二年卒。

編集後記

君(前出)には大きな拍手を送る。学生指揮者でのぞみうるトップクラスの出来と言ってよいのではないかと。

他校もみな熱演。特に同志社が小林研一郎氏の指揮で歌った「縄紋」は、八年前の四連で私が四年生の時に同じ小林氏の指揮で初演したものだけに感慨深かった。合同「御誦」(北村協一氏指揮)も楽しめた。余談になるが、早稲田は今年初めて定演の指揮に北村氏を招くとのこと。とても意外な取り合わせとも思えるが、早稲田の新しい一面を引き出してくださることを期待している。

それにしても、六連・四連とも今年で四十回。どの団も紆余曲折の末、今日までやってきたことと思うが、それにしてもメンバーがそっくり入れ替わっているのは面白い。今、小学校の高学年くらいでひよつと小学生の音楽の授業なんかそつちの子供達か、十年後に記念すべき五十回の演奏会の主役になると思うと、これもまた面白い。

今号は製作時間の関係で積み残し記事が大分ありました。清水実さん(三八)が見事な優勝を飾った「稲グリゴルフコンペ」記事は執筆者でもある清水さんが激怒しているのを無視して次回回し。ソ連演奏旅行以来、短歌・俳句のよなものは狂って遂に「稲グリいろは歌留多」づくりにいそしんでいる長岡義磨さん(三八)の原稿(ほとんど一頁に及ぶ)、また、大阪・浅井修三さん(三二)から寄せられている「稲グリ愛唱歌集」の訂正原稿も次回回しとさせていたいただきました。乞うご諒承。

ここへきて土、日の臨時練習、同期の送別会、大阪合宿への参加と編集局員は東へ西へと大忙しの中、何とかOB四連直前号が完成したのであります。ホッ。(E)